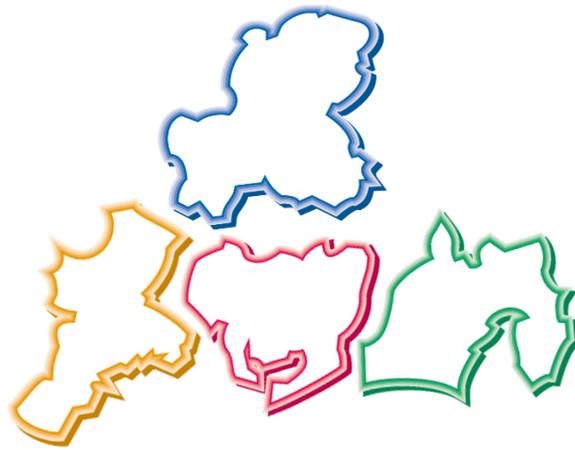


令和4年度

# 「研究実践地区の紹介」



東海地区公立小中学校事務研究会研究部

## 東海地区公立小中学校学校事務研究会 研究部報 実践地区一覽

### 愛知県

- ・千種区学校事務研究会 (名古屋市千種区)・・・2
- ・海部地区公立小中学校学校事務研究会 (海部支部)・・・3
- ・新城地方公立小中学校学校事務職員研究会 (新城設楽地区)・・・4

### 岐阜県

- ・東濃地区小中学校学校事務職員研修協議会 (東濃地区)・・・5

### 三重県

- ・亀山市教育研究部推進協議会 (亀山支部)・・・6

### 静岡県

- ・湖西市教育会事務研究部 (湖西地区)・・・7
- ・賀茂教育研究会事務研修部 (賀茂地区)・・・8

問い合わせ先一覽 研究についての問い合わせは、下記へお願いします。

会の名称	名前	学校名	電話番号
千種区学校事務研究会	萩原 嵩之	名古屋市立東山小学校	052-781-1146
海部地区公立小中学校学校事務研究会	石黒 義章	あま市立美和中学校	052-444-1026
新城地方公立小中学校学校事務職員研究会	仲谷 知宏	新城市立千郷小学校	0536-22-0162
東濃地区小中学校学校事務職員研修協議会	牧野ひろみ	恵那市立山岡中学校	0573-56-2614
亀山市教育研究部推進協議会	諸岡 大樹	亀山市立亀山南小学校	0595-82-9115
湖西市教育会事務研究部	齋竹 雅輝	湖西市立岡崎小学校	053-577-0003
賀茂教育研究会事務研修部	須田 京子	松崎町立松崎小学校	0558-42-0049

# 愛知県

テーマ	学校における DX (デジタルトランスフォーメーション) について		
地区名	名古屋市千種区	会の名称	千種区学校事務研究会
研究責任者	萩原 嵩之	所在地	名古屋市千種区橋本町3-20
学校名	名古屋市立東山小学校	電話番号	052-781-1146

## 1 研究の概要

千種区学校事務研究会（以下本会）は、小学校14校、中学校5校、会員19名で構成されています。

昨年度本会では、学校現場に大きく変革を与えた GIGA スクール構想や、ICT の活用方法等について研究しました。

これを踏まえ今年度本会では、名古屋市が令和4年3月に策定した「名古屋市役所 DX 推進方針」（以下推進方針）についての研究及び実践を行いました。

## 2 実践内容

### (1) 推進方針について

推進方針を理解するため、公表されている資料を共有し、概要や今後の計画について確認しました。この中で、特に以下の点に注目しました。

- 1) 様々な業務をデジタル化することにより、市民サービスだけでなく、職員の働き方にも影響すること。
- 2) ペーパーレス化や庁内 LAN の無線化を推進することにより、業務の効率化を目指すこと。
- 3) テレワーク環境を充実させ、柔軟な働き方の実現を目指すこと。

### (2) 学校における DX について

上記の推進方針を踏まえ、学校でできる取り組みとして、ペーパーレス化に取り組みました。学校は市役所内でも紙の使用量が多く、改善の余地が大きいと考えたためです。

まず、各校が昨年度、紙類及び印刷用品の購入並びにコピーにどれだけ予算を執行したのかを調査しました。各校がどのくらい紙や印刷に予算を執行しているのかを比較することができ、今後の各校の予算執行に活用したいと考えました。

また、各校でのペーパーレス化の取り組みについても調査しました。これにより、職員会議や朝の打ち合わせのペーパーレス化、モニターを使用することによる拡大用紙の使用減少、保護者アンケートのオンライン化等、ICT を活用した取り組みが増えていることが分かりました。

今後は上記の取り組みを各校で実践し、効率的な予算執行だけでなく、時間の有効活用にもどの程度寄与できるか研究したいと思います。

### (3) その他

本会の開催にあたっては、令和3年度から「庁内 Web 会議システム」を利用しリモートにて会議を開催しています。このシステムにはチャットや挙手等の機能がついており、便利なシステムです。今後も効率的で柔軟な働き方を模索していきたいと思えます。

# 愛知県

テ ー マ	『基本的な学校事務の充実』と『新しい学校事務の展開』の推進		
地 区 名	海部支部	会 の 名 称	海部地区公立小中学校事務研究会
研究責任者	石黒 義章	所 在 地	あま市木田丁子ノ口1
学 校 名	あま市立美和中学校	電 話 番 号	052-444-1026

## 1 研究の概要

海部地区の全市町村において、学校管理規則の改正及び共同学校事務室設置要綱の制定がなされました。各会員、各共同学校事務室が、各現場に応じた多様な取り組みを主体的に推進していき、職務を通じて具体的な成果をあげることが重要です。そのような多様な実践に対して、臨機応変に柔軟な支援をしていきます。

学校事務職員としての基本的な実務の事務処理能力は必須事項です。そこで研究会組織として、実務に直結する研究・研修、資料や情報の提供を行い、学校事務職員としての専門性を高められるように会員を支援していきます。

また、「つかさどる」事務職員として求められる新たなスキルを研究し、会員が自発的に習得することができる体制を目指します。

海部事務研は専門部活動や研修講座の開催等の諸活動を通じて、会員の資質向上に努め、情報共有を図りながら研究を積み重ねていきます。

研究テーマは、『基本的な学校事務の充実』と『新しい学校事務の展開』の推進。サブテーマは、『新時代のニーズに応える学校事務職員を目指そう』としまして、日々活動を続けています。

## 2 実践内容

### (1) 研究部

- 1) 学校事務改善のための実務支援および研究
  - ア 学校事務改善委員会への対応
  - イ 各種手引書の改訂
  - ウ 令和5年度県大会での海部支部発表にむけての研究

### (2) 研修部

- 1) 資質の向上、能力開発を目的とした研修事業の企画運営
  - ア 事務職員の実践力向上につながる研修の企画運営
  - イ 研修体系の構築
  - ウ 人材育成のための中核的役割を担当

### (3) 情報ネット部

- 1) 情報の発信と管理
  - ア ホームページの管理・運営
  - イ 「広報こもれび」の配信
  - ウ 実務や実践に有用な情報の発信と共有

### (4) 事務局

- 1) 総務的な事業の対応
  - ア 研究会の総務的な事業の対応と役員会事務
  - イ 予算の管理執行
  - ウ 県事研等からの各種調査の対応と各種大会の取りまとめ
  - エ 共同学校事務室の連携に向けた活動

# 愛知県

テーマ	「チームとしての学校づくり」の実現に向けて		
地区名	新城設楽地区	会の名称	新城地方公立小中学校事務職員研究会
研究責任者	仲谷 知宏	所在地	新城市杉山字前野4番地1
学校名	新城市立千郷小学校	電話番号	0536-22-0162

## 1 研究の概要

新城地方公立小中学校事務職員研究会は、新城市、設楽町、東栄町、豊根村の1市2町1村、20小学校10中学校で構成される約30名の学校事務職員で活動をしています。

本研究会は、愛知県事務職員研究会が掲げるグランドデザインにある「チームとしての学校づくり」を担う事務職員を目指しています。

「継続こそ力なり」という言葉こそ、私たちの研究会活動を象徴する言葉であり、コツコツと築き上げた土台なくして、現状打破のひらめきは生まれません。会員全員で知恵を絞り、少しずつでも成果を上げていこうと努力を続けています。

## 2 実践内容

### (1) 校務支援部

「チームとしての学校づくり」を担う事務職員を目指し、学校経営への参画のために様々な支援を行っています。

#### 1) WEBのアンケートシステム

学校評価の参画に向けて、WEBを利用したアンケートシステムの実験や、マニュアル作成を行いました。

#### 2) 学校の業務改善

地区の全教職員を対象に負担に感じている業務のアンケートを行い、事務職員の視点で業務改善の方法を提案します。

### (2) 研修企画部

「チームとしての学校づくり」を担う事務職員を目指し、資質向上のための研修を行っています。

#### 1) 外部研修リスト

会員自身が学校のために必要なスキルを習得できるように、様々な研修をリストアップして配布しています。

#### 2) 集合研修

学校で企画立案するための力をつけるために、集団で学校の問題を解決する・集団で合意を形成するといったグループワークを行っています。

### (3) 資料管理部

「チームとしての学校づくり」を担う事務職員を目指すには、事務職員自身の業務を効率化する必要があります。そのための情報・知識の整理を行っています。

#### 1) 手引きの維持管理

他団体が作成した手引きには記載されていない事務処理について、必要書類等をまとめた手引き『デスクフレンド』を作成し、その更新を行っています。

#### 2) 文書ファイルの背表紙作成ソフト

各自治体や各学校の文書分類を統一するために、文書ファイルの背表紙作成ソフトを作成し、その更新を行っています。

## 岐阜県

テーマ	子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務		
地区名	東濃地区	会の名称	東濃地区小中学校事務職員研修協議会
研究責任者	牧野 ひろみ	所在地	恵那市山岡町下手向182-4
学校名	恵那市立山岡中学校	電話番号	0573-56-2614

### 1 研究の概要

東濃地区小中学校事務職員研修協議会は、多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市、中津川市の小学校60校と中学校37校の計97校、会員数99名で構成されています。

本会では、学校事務職員としての専門性を発揮するために資質向上に努め、学校経営・運営に積極的に参画できるよう、研修を進めています。また今年度は、共同実施体制について、より一層の推進と情報連携を図るための研修や交流も行っています。ただし、今年度もコロナ禍の影響により、昨年度と同様、グループワーク形式の研修は取りやめ、リモート形式での研修や講話のみの研修での実施を予定しています。

#### (1) 研究テーマ

「子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務」  
～学校経営に主体的に参画しよう～

#### (2) 研究の重点

- 1) 研修を通して、学校事務職員としての資質向上を図る。
- 2) 研修を通して、学校経営をサポートできる事務職員として能力向上を図る。

### 2 実践内容

#### (1) 事務指導

年3回開催する東濃地区小中学校事務職員研修協議会では、東濃教育事務所管理調整係から給与事務及び旅費事務について指導をいただくことで、適正かつ効率的に事務処理が行えるよう努めています。

#### (2) 資質向上研修

今年度は、共同実施の推進の一助となるよう、共同実施に関わる研修を行っています。第1回研修会では、各市の共同実施体制の実態交流を企画し、第2回研修会では、県事研特別部の共同実施進め隊による講話を実施しました。

また、東濃教育事務所長様にもこれからの学校教育や事務職員のあり方についての講演をいただきました。

## 三重県

テ ー マ	よりよい学校づくりをめざして part II ～新たな学校事務の役割について探求する～		
地 区 名	亀山支部	会 の 名 称	亀山市教育研究部推進協議会
研究責任者	諸岡 大樹	所 在 地	亀山市天神3丁目10番25号
学 校 名	亀山市立亀山南小学校	電 話 番 号	0595-82-9115

### 1 研究の概要

亀山市は小学校11校、中学校3校の計14校で構成されています。

本会は、亀山市教育委員会において研究組織として位置づけられている亀山市教育研究部推進協議会の学校事務部として研究・研修を行っています。今年度は昨年度に取り組んでいた内容を引き継ぐ形で研究を行っています。

### 2 実践内容

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながらなかまとともに主体的に学ぶために」という亀山市教育委員会の定める研修基本方針のもとに昨年度の1～4班構成を引き継いで研究を行いました。

#### (1) 備品に関する取り組みの発表班

第1班は事務職員の学校備品への取り組みを児童・生徒へ周知するためのパワーポイントを作成しました。

学校事務職員が普段どのような業務を行っているか知ってもらうことでお互いの距離を近くし、より子どもたちに直接的な支援を行えるようにするのが目的です。その一つとして備品購入に関する取り組みを例示し、子どもたちの要望が反映されるまでの過程と結果を明示しています。

#### (2) 備品台帳の整備班

第2班は亀山市の備品台帳の整備についての取り組みを行いました。現行の備品台帳に対し意見を出し合い、問題点やその解決方法を検討しました。仕様案をまとめ、新しい備品台帳の仮案を作成、使用し、そのフィードバックをもとに次年度より新台帳への移行予定です。

#### (3) 学年会計事務の調査班

第3班は学年会計の徴収や学校納付金システムに関わって各校の取り組みや課題をまとめ、その解決や業務内容の統一を図ったマニュアルとQ&Aの作成を行いました。亀山市は学校納付金業務の担当が学校事務職員か教員か決まっていなため、異動や校務分掌の変更があると不慣れな担当者へ業務が回ってくる場合があります。そのような場合でも滞りなく業務を行うため、マニュアルを作成し亀山市内で共有を可能にするのが目的です。このマニュアルは次年度以降も引き続き改良を行っていきます。

#### (4) 学校納付金システム運用改善班

第4班はスポーツ振興センターの掛金の支払いと学校納付金システムの関わりに着目し、システムを利用することで業務の改善を図る取り組みを構想しました。就学援助の対象になった家庭は掛金が免除されますが、学校納付金で一旦集金されてしまい、無駄な返金事務が担当職員の負担となっていました。それを解消するための方策を練り、次年度にその取り組みを行う対象校を決めた後、実行し結果を検討する予定です。

## 静岡県

テーマ	子どもの豊かな育ちを支援する学校事務		
地区名	湖西地区	会の名称	湖西市教育会事務研究部
研究責任者	齋竹 雅輝	所在地	湖西市岡崎634-2
学校名	湖西市立岡崎小学校	電話番号	053-577-0003

### 1 研究の概要

湖西市教育会事務研究部は、小学校6校と中学校5校の11校、会員数26名（市費負担事務職員含む）で構成されています。研究テーマを「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」とし、積極的に校務マネジメントに参画することのできる事務職員の育成及び校務マネジメントにおける職務上の役割を果たすための研究活動を行っています。本年度は、校務マネジメントに円滑に携わることができるようコミュニケーション能力の向上に重点を置き、研修を行いました。

### 2 実践内容

#### (1) 湖西市教育会学校経営研究部・事務研究部合同研修会

静岡教育事務所地域支援課参事の兼子美様を講師に迎え、会計年度任用職員の任用時の注意点や、事務職員の学校経営参画について講話を受けました。合同で研修を受け、教頭と事務職員が共通の認識を持つことで、会計年度任用職員の任用時の事務処理が円滑になったり、事務職員が学校経営に参画しやすい環境に繋がったりしました。

#### (2) 湖西市教育会事務研究部（県職・市職）研修会

公立学校共済組合静岡支部の職場の健康づくり支援事業を活用し、交流分析士杉元真友実様を講師に迎え、コミュニケーションスキル（交流分析）について講話を受けました。交流分析により自身のタイプを診断し、タイプ別での伝え方の注意点や、年齢や立場（環境）に合わせて伝え方を正しく選択することで、より良いコミュニケーションに繋がることを学びました。

#### (3) コミュニケーション研修

コミュニケーション能力を高めることで、校務マネジメントに円滑に携わることができるようになるため、年3回コミュニケーション研修を行いました。1回目は、コミュニケーション（ファシリテーション）の概要を学び、会員内でグループワークを行いました。2回目は、静岡県総合教育センター専門支援部研修課の藤田真由美様・多田亮介様を講師に迎え、コミュニケーションスキル（ファシリテーション）について講話を受けました。3回目は、Zoomを活用し、オンライン上で、2回の研修で学んだことを実践する研修を行いました。学んだこと（インプット）を実践すること（アウトプット）で、スキルの定着を図りました。

## 静岡県

テ ー マ	子どもの豊かな育ちを支援する学校事務		
地 区 名	賀茂地区	会 の 名 称	賀茂教育研究会 事務研修部
研究責任者	須田 京子	所 在 地	静岡県賀茂郡松崎町宮内332
学 校 名	松崎町立松崎小学校	電 話 番 号	0558-42-0049

### 1 研究の概要

賀茂地区は、伊豆半島の南に位置し1市5町、中学校8校、小学校19校から構成されています。事務職員の兼務校は2校あり、県費学校事務職員の配置は26名です。令和4年度には学校統合があり中学校が3校減となりました。令和5年度には小学校2校減が予定されています。

賀茂地区の学校統合による事務職員数減や世代交代という課題、また、急速に変わる学校事務職員へ求められる力や姿に対応する研究テーマを設定し、賀茂地区事務職員全員で研究活動に取り組んでいます。

賀茂教育研究会事務研修部として、3年間で1つのサイクルとし、同一テーマで研究しており、本年は3年サイクルの2年目となります。

#### (1) 研究テーマ

子どもの豊かな育ちを支援する学校事務  
「未来を見据えた持続可能な活動」

#### (2) 研究のねらい

- 1) 個々の成長
- 2) 世代交代による知識・経験の継承
- 3) 事務職員数減少による研究活動の負担軽減

### 2 実践内容

賀茂教育研究会では研修部ごとに年3回の研修会を行っています。

#### (1) 賀茂教研事務研修部第1回研修会（各研修部一斉開催）

年間計画作成・研究の概要提案

#### (2) 第2回研修会 スキルアップ研修（コロナ禍のためオンライン開催）

静岡県教育研究会夏季研究大会、富士市提案の動画を視聴してグループワークを行った。グループワークのテーマは「なりたい、なってほしい事務職員」。全体を5つのグループに分け、「好きな仕事」「得意な仕事」「大切にしている気持ち」をテーマに、「今後の仕事にどのように生かしていきたいか」を話しあった。初めてのオンラインによるグループワークだったが円滑に進めることができた。また記録の配布及び事後アンケートを実施し、全体で共有した。

#### (3) 第3回研修会 スキルアップ研修（参集型を予定）

##### 1) 講話 「時間管理の整理術」（職場の健康づくり支援事業による講師派遣）

働き方改革に対応するために時間管理を学び日々の生活に役立てる。

##### 2) グループワーク「進んで実践していることについて話し合おう」

学校教育目標の達成に向け学校事務職員という立場から学校運営・学校経営に積極的に参画していくこと、また自ら進んで取り組んでいることをお互いに知り学校運営参画につなげていくことを目指し第2回と同じメンバーでグループワークを行う。その後記録の配布及びアンケートを実施し全体へ還元する。